

ひまわり新聞 19

<特集>

「支援」から「仕事のパートナー」へ NPO法人 和 / 生活介護事業所ほっとライフ

- P3 第9回ひまわり甲子園全国大会
ひまわり甲子園2020全国大会
- P4 「ひまわり防災検定」がスタート!
- P5 福島からシリアの子どもたちへ贈る希望の絵本
「ぼくのひまわりおじさん」朗読動画を配信
- P6 想いを引き継ぎ レトルトカレーを開発
- P7 会津の伝統工芸にひまわりをデザイン
- P8 オリンピック・パラリンピック聖火リレー出場の報告
全国の里親さんから届いたひまわりの種 宇宙より帰還
- P9 ひまわり栽培&ドローン・カメラ・動画作成体験
- P10 福島大学のインターン生が活動
- P11 お見舞い募金のご報告
WEBサイトが新しくなりました!
- P12 2021年 ひまわりの種 福島県内寄贈先
- P13 福島ひまわり里親プロジェクトの記録
- P15 おしらせ



「fun cafe NET」ひまわり畑の花見
7月25日 伊達市梁川町

2022年度 スケジュール

最新情報・詳細は、WEBサイト、
ブログ、SNSにて随時お知らせします。

▶2022年

- 5月3日 田村市大越町牧野地区 ひまわりの種まき
- 5月12日 吉成さん 一回忌
- 6月5日 田村市大越町牧野地区 ひまわりの苗植え
- 8月15日 ひまわり結婚式

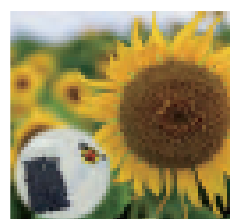
▶2023年

- 3月 第10回ひまわり甲子園全国大会

＼全国の里親さんへ／

種の販売を開始しました!

今年もひまわりを育て採れた種を福島に送っていただけると嬉しいです。種の購入をご希望の方は、別紙またはオンラインショップから、よろしくお願いします。



“きずな”の種セット
種10g (70~100粒程度)
1,200円 (税込)



“きずな”の種と絵本セット
種1g (10粒程度)
1,500円 (税込)



SDGsボックス
種10粒×100袋
10,000円 (税込)

福島ひまわり里親プロジェクト オンラインショップ



<https://himawaritane.official.ec/>

<福島県内にお住まいの皆様へ>

全国から届いた種を無料でお渡しさせていただきます。ご希望の方は、別紙または福島ひまわり里親プロジェクト事務局までご連絡ください。

NPO法人チームふくしま 福島ひまわり里親プロジェクト

〒960-8055 福島県福島市野田町6-7-8ツインコートB103

福島ひまわり里親プロジェクト事務局

TEL: 024-563-7472 / FAX: 024-529-5794

MAIL: info@sunflower-fukushima.com

HP: <https://www.sunflower-fukushima.com/>

ブログ <https://ameblo.jp/sunflower-fukushima/>

Facebook <https://www.facebook.com/fukuhimawari311>

Instagram <https://www.instagram.com/fukuhimawari311/>

Twitter <https://twitter.com/fukuhimawari311>

福島ひまわり里親プロジェクトの活動は

#福島ひまわり里親プロジェクト のタグをつけて投稿してください☆



メディアお問合せ、種の寄贈、各種イベント、賛助会員、グッズ販売などお気軽にお問い合わせください。そのほか、各地での活動報告や、ひまわり新聞をご覧になった感想などもお待ちしております!

編集後記

コロナ禍が続いている中でも、2021年も様々な取り組みを行わせていただきました。これも応援してくださる皆様のおかげです。心から御礼申し上げます。2022年3月で東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故から11年が経ちます。また、福島ひまわり里親プロジェクトも12年目をスタートさせていただきます。皆様の応援いただきながら、理念「For you For Japan」のもと、震災・原発事故の伝承伝達により一層取り組んで参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

ひまわり新聞19号、最後までお読みいただきありがとうございました。(清野)



特定非営利活動法人
和 (なごみ)

福島県二本松市渋川字大森越122
<https://www.npo-nagomi.org>



全国の里親さんから届いたひまわりの種を福島県内で咲かせ、そこで採れた種をなごみさんで搾油。その後、県内の別の福祉作業所にてバイオ燃料に加工され、県内を走るバスの燃料の一部として活用されます。

ひまわりの種の袋詰の作業をしていただいています。障害福祉サービスを通じてご利用様が安心して社会生活を送れるよう努めることを信条とし、ご利用様の声に耳を傾けるだけでなく、ご家族の皆様とも連携をとり、お一人おひとりに合ったサービスを提供しています。「なごみの店」では、自主製品である豆腐やこんにやくを常時販売しています。商品は、ホームページ内のオンラインショップから通販で購入することも可能です。



ひまわりの種に同封するプラカードづくり

ひまわりの種の袋詰め

生活介護事業所
ほっとライフ

福島県福島市西中央4丁目46番
<http://www.tsudoi.or.jp/>

ひまわりの種の袋詰、ひまわり新聞の折り作業をしていただいています。利用者の方々の主体的な生き方と豊かな自己実現を具現化できるよう、利用者の立場に立ち、個別のニーズに適切に応えていくサービスの提供をしています。日中活動では生産活動（受注作業や自主製品作り）やレクリエーション活動、地域における体験活動など、利用者一人ひとりに合わせた利用者主体の活動を行い、地域生活や社会参加が充実したものになるように支援しています。



ひまわりの栽培



ひまわりの種採り



ひまわり新聞の折り作業



「支援」から「仕事のパートナー」へ

福島ひまわり里親プロジェクトの柱は3つ。「観光促進」「防災教育」そして「福祉雇用」です。

「福祉雇用」を柱の1つにしたきっかけは、震災直後に、NPO法人和（なごみ）さんの所長から「お菓子の箱折りや野菜の出荷もゼロで仕事がない。これからどうしていいかわからない」という話を聞いたからです。そこで、何とかして雇用を守るために仕事をつくらうと、ひまわりの種の分けや袋詰めなどをお願いするようになりました。

ある時、なごみさんを訪ねると、作業所の利用者さんに「ひまわりさんこんにちは！いつもありがとうございます！」と深々とお辞儀をされました。当時はプロジェクトも軌道にのりかたところで、お給料も以前より低かった時。どうしてありがたいなんだろうと思っていたところ、スタッフの方が教えてくださいました。

「私たち作業所の利用者さんたちは、震災があつたときに仕事が全部なくなつたんです。だから、お給料よりもまず、働く喜びっていうのがなくなつたんですよ。でも、ひまわりのおかげで、いま仕事をさせていただける喜び、働ける喜びというのが一番うれしいんです。彼らは、ボランティアで食事をつくることもできないし、たいした募金をすることもできないけれど、ひまわり

の活動なら全力で手伝えます。自分たちの仕事福島復興に役立つことを誇りに思っているんです。そんな機会を与えてくれて『ありがとう』なんですよ」と。

困難な時期も、こうした作業所のみなさんの想いに支えられ続けてこれました。

2014年からは、ほっとライフさんにもお仕事をお願いしています。こちらは、生活介護事業所で重度の障がいを持った方が利用されており、できる仕事に限られています。そのため、なかなか仕事が見つからないと困っていました。そこで、プロジェクトに関わることで社会とのつながりを持ち、生きがいにつながれば・・・と考えました。

このように、プロジェクトを通して、皆さんの雇用を守る力になりたいと仕事を依頼するようになったのです。

現在、なごみさんでは、商品の製造・発送、ひまわりの種からの搾油、ダイレクトメールの封入などを、ほっとライフさんは、県内向けの種の袋詰め、ひまわり新聞の折作業などを行ってくださっています。

スタートから10年。震災直後は、私たちは雇用を守ろうと支援する側でした。しかし、今では私たちのプロジェクトの「仕事のパートナー」として、なくてはならない存在となつています。

【2021年7月16日】東京オリンピック会場
あづま総合運動公園内「サイクル広場」にひまわり

東京オリンピック会場にもなっている福島市のあづま総合運動公園内のサイクル広場に、ひまわりのプランターを設置させていただきました。このひまわりは、全国の里親さんから届いた種の袋詰め等を行って頂いている、「生活介護事業所ほっとライフ」さんで育てていただいたものです。

▶ <https://youtu.be/OLBIQOzBpmg>

※この事業は、令和3年度公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の助成を受けて実施させていただいております。





震災の記憶と教訓をつなぐ

「ひまわり防災検定」がスタート!

伝承伝達。震災を経験した私たちは、それをとても大切だと考えています。しかし、その時に「自分たちはこうだったから」と、私たちの経験や情報を押し付けるのではなく、また、知識を得てもらいだけでなく、皆さん自身の暮らしにどう活かすかを考え、行動するきっかけにしてほしい。そう思って、この防災検定を作りました。そして、それがこれまでご支援いただいた皆様への感謝の形の一つでもあります。

災害が起きた時、「平時」がどれほど大事かということに私たちは改めて気づかされました。この「ひまわり防災検定」を通して今一度立ち止まり、自分の生き方、他者や地域との関わり方を考えるきっかけになれば幸いです。

現在募集している3級のテーマは「知る・考える」。オンラインも可能で、全国どこからでも受講可能です。コロナ禍で気軽に移動ができない中、福島を知り、防災を考える手段としてぜひお役立てください。

3級受験流れ

- ①講座
- ②試験
- ③ワークショップ

受験費用

3,500円/人

所用時間

50分～90分程度
(要相談)

申し込み方法

▼メールまたはFAXでご連絡ください
福島ひまわり里親プロジェクト事務局 宛
MAIL: info@sunflower-fukushima.com
FAX: 024-529-5794
※5人以上にて申し込みが可能です
※詳細は「ひまわり防災検定」のチラシをご覧ください

受験者の声

「ひまわり防災検定」を受けてあまりに災害について危機感がないことに気付くことが出来た。家族と確認しなければいけないことが分かったし、自分で身を守るためにも何をしなければならないのか、災害はいつ起きるか分からないので、今のうちに備えておくことの大切さに気付くことができた。

具体的に防災について考える機会が少なかったですが、「ひまわり防災検定」を経て、これから家族や友人等の大切な人を守っていくために防災に力を入れていきたいと思わせてもらった。

自分が考える防災についての考えの狭さに驚いた。他の人と話すことで、自分が思いつかなかったことを知る事が出来てとても学びとなった。

受験してより一段と防災に対する意識を高めることができたとともに、あまりに災害への対策がこれまで出来ていなかったことにも気付かされた。

災害や防災について考えて、グループで共有することが楽しかった。考えなければならないことは明い事ばかりではないが、自分ひとりではなく、グループみんなで話し合ったからこそ皆さんの気付きをいただき、防災について考えを深めることができた。

(有)スエヒロ様(山形県)、(有)こじま様(京都府)、安城学園高等学校様(愛知県)、山形学院高等学校様(山形県)、東洋大附属姫路高等学校様(兵庫県)など、500名以上の方に受講いただいています。(2022年1月末時点)



今年もオンラインでの開催が決定

第9回ひまわり甲子園 全国大会



「繋ごう 想いともに未来へ」
「お互いさまの種を蒔こう」

一粒のひまわりの種を通して、たくさんの方が繋がって、想いの気持ちが伝わる「福島ひまわり里親プロジェクト」も皆さまのあたたかいご支援、ご協力を頂きながら11年目を迎えることが出来ました。本当に感謝しております。

このプロジェクトに参加して下さる全国の里親さまの取組みを発表するイベント「ひまわり甲子園全国大会」も、今年で第9回を迎えることになりました。今までは、福島に越えただけ会場場の雰囲気や、里親さん、関わって下さる方の温もりを感じながら発表をさせて頂きましたが、今年はオンラインでの配信とさせて頂きました。

島を想うその気持ちは皆さん一緒でした。そして、その想いが人から人へ、大人から子どもたち次世代へと繋がっているのを感じました。

実は昨年、私たちNPO法人チームふくしまの大切な仲間である、はぐちゃんこと吉成洋拍(享年49歳)が天国へと旅立ちました。彼は震災があつたこの福島を「世界一優しさに溢れた、お互いさまの街ふくしま」にするため、たくさんの方のアイデアを生み出し一つひとつ形にしていきました。受けた恩を誰かのために送る『恩送り』の仕組みも、お互いさまの街ふくしまを実現していくためのひとつです。

里親さんが繋いでくれた「福島への想い」とともに、故吉成洋拍が大事にしていた「お互いさまの街ふくしま」の想いを、私たちが未来へと伝え、繋げていくために、これからも種を蒔いていきます。

今年もそのような想いで、第9回ひまわり甲子園全国大会を開催させて頂きまので、どうぞよろしく願いいたします。

想いを伝え続けていくことで、はぐちゃんも皆さまと共に生き続け、その想いも未来へと受け継がれていくでしょう。

第9回ひまわり甲子園全国大会
実行委員長 大和田 勲

開催日時 2022年3月5日(土)
14:30～17:30

参加費 無料

配信先 オンライン開催



Facebook



YouTube

ひまわり甲子園2021全国大会

2021年3月6日。8回目となる全国大会を、初のオンラインにて開催しました。プロジェクト発足からの10年間の取組みや、コロナ禍で活動が難しい中でどう取り組んだかなどを、6組の皆さまが発表。当日の様子は、アーカイブ動画にてご覧いただけます。

【全国の代表者発表】(敬称略)

高等学校部門代表 学校法人安城学園 安城学園高等学校

中学校部門代表 宇治ひろの学園

関西地区代表 のぞみ整骨院グループ

中国・四国地区代表 福島ひまわり里親プロジェクトを応援する会

信州・北陸地区代表 山田 雅彦

海外での取組代表 岩堀 美雪

<https://www.sunflower-fukushima.com/project/blog/20210310.html>



想いを引き継ぎレトルトカレーを開発



2021年5月12日、NPO法人チームふくしま副理事長であり、震災時からともに復興へ向けて走り続けた仲間である吉成洋拍が、夢半ばで他界しました。力を入れていた子ども食堂の運営課題の解決として、レトルトカレーを作ることを倒れる直前まで思考していたことを受け、彼の夢んでいた計画と想いをチームふくしまで引き継ぐことにしました。8月には、その「想い」を24時間テレビ「愛は地球を救う」でも特集され、福島県内にて放映されました。

9月から10月までクラウドファンディングを実施し、247名の方から、合計4,002,211円をご支援いただき、レトルトカレーの開発費・製造費等として使わせていただきました。そして、生まれたのが「HUG curry（ハグカレー）」です。カレーの製造は、宮城県の就労移行支援及び就労継続支援B型の施設「くりえいと柴田」さん。

彼の想いを引き継ぎ、今後の未来を担っていく子どもたちのために、そして、そのご家族を支えるために、チームふくしまは「HUG curry」を販売していきます。



12月14日(火) 吉成さんが設立された「BLT子ども食堂」へ「HUG curry（ハグカレー）」1,000食分を寄贈させていただきました。同日に、BLT子ども食堂が15時～19時の間で実施され、事前予約があった約100世帯400名に、「HUG curry（ハグカレー）」とお米の配布が行われました。



HUG curry ハグカレー

「子ども食堂を応援するレトルトカレー」

- 2個セット 1,200円
- 6個セット 3,000円
(6個のうち1個を子ども食堂に寄付)
- 寄付ボックス 10,000円～
(福島県内の子ども食堂に全て寄付)

<http://curry89.base.shop/>



ぶなしめじとゆばが入った
トマトカレー!

吉成洋拍 追悼ページ

吉成さんのメッセージなど数々の動画や新聞記事などを掲載しています。また、吉成さんとのエピソードも引き続き募集しています。詳細はサイトをご覧ください。

<http://www.sunflower-fukushima.com/topics/news/20210629.html>



福島からシリアの子どもたちへ贈る希望の絵本

今年3月で、東日本大震災とシリアの内戦につながる民主化運動が広がってから共に11年となります。

震災直後から福島に通い続けるシリア人ジャーナリストのナジブ・エルカシュさんとの縁により、シリア内戦で難民となった子どもたちに福島県の復興に向けた道のりを描いた絵本「ぼくのひまわりおじさん（サンクチュアリ出版/2018年）」をアラビア語に訳して届けるプロジェクトを2021年より始めました。

当時、ナジブさんは、原子力災害により、故郷を離れざるをえなくなった福島とシリアの人々が重なって見えたそうです。そして、現在のシリアには長引く避難生活の中で希望を失っている子どもたちが多くいるということを教えてくれました。

そこで、福島の復興に向けた取り組みの絵本をアラビア語に訳し贈ることで、福島の教訓が何かの役にたつとともに、少しでもシリアの子どもたちの生きる希望になればと考えました。

昨年3月に、クラウドファンディングを行い、目標額55万円に対して61名の皆様から84万4千円のご支援をいただきました。それにさきがけ、2月27日(土)には、シリア北部のアレッポにあるサワイドナ子どもセンターで行われた卒業式で絵本を贈呈するとともに、シリアと福島をつな



いで交流をし、その様子をオンライン配信しました。今後、ヨルダン、レバノンなどの難民キャンプへも絵本を届ける予定です。また、現在は、アラビア語版の朗読動画を配信しています。

この絵本のモデルは、福島県田村市で25年以上前からヒマワリを通じた地域活性に取り組む「牧野ひまわり会」代表の佐久間辰一さん。震災をきっかけに佐久間さんと出会った私たちは、その生き方に感銘を受け、多くの人に知ってほしいと思い、この絵本が生まれました。

シリアでは子どもたちは「太陽の子」なのだそう。それは、「ひまわりのことでもある」とシリアの先生が言われていました。福島のひまわりが、シリアの子どもたちの心を太陽のように明るくあたためてくれることを願っています。

「ぼくのひまわりおじさん」朗読動画を配信

ルポ絵本「ぼくのひまわりおじさん」朗読映像(アラビア語/日本語)を配信しています。日本語版の朗読をしてくれたのは、NPO法人チームふくしまでインターンをした福島大学の学生です。震災の伝承伝達に、そして、元気と希望を与えてくれる物語として、ぜひ多くの方にご覧いただくと嬉しいです。なお、日本語版の絵本は、書店や当プロジェクトのオンラインショップ等で購入可能です。

※この事業は、「3.11メモリアルネットワーク(JT NPO応援)基金」の助成で実施しております。



▶日本語版
<https://youtu.be/dYkeLFvZ8WQ>



▶アラビア語版
https://youtu.be/_-70BkeMzrs



東京オリンピック・パラリンピック 聖火リレー出場のご報告



東京オリンピック・パラリンピックの聖火ランナーに、チームふくしまの理事3名、福島県田村市の「ひまわりおじさん」こと、佐久間辰一先生が選出されました。当プロジェクトを応援してくださっている皆さまのおかげで、このような機会をいただきました。ありがとうございます。皆さまと想いをひとつに、災害による犠牲者がなくなることや平和への祈りを込め、そして、震災をきっかけにご縁をいただいた皆さまへの感謝の気持ちを込め、想いが次世代へとつながるように走らせていただきました。



理事 堀内 孝勇
(走行:いわき市)



理事 半田 真仁
(走行:福島市)



佐久間 辰一先生
(走行:田村市)



理事 鈴木 厚志
(走行:埼玉県)

全国の里親さんから届いた ひまわりの種 宇宙より帰還

東日本大震災からの復興事業「東北復興宇宙ミッション2021」(主催:一般財団法人ワンアース)を通じて、全国の里親さんから届いたひまわりの種が宇宙へ打ち上げられました!

打ち上げスケジュール

- 6月4日 NASAより打ち上げ
- 6月5日 国際宇宙ステーションへ到着
- 7月8日 地球を600周し、
国際宇宙ステーションより離脱
- 7月10日 地球へ帰還(メキシコ湾着水)

宇宙を旅したひまわりの種



一般財団法人ワンアースの長谷川洋一様、甚野源次郎様より、宇宙より帰還したひまわりの種と宇宙フライト証明書を受け取らせていただきました。帰還の様子は動画でもご覧いただけます。

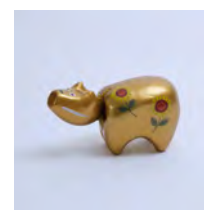
▶ https://youtu.be/L677j7iR_ZA



福島ひまわり里親プロジェクトから生まれた商品 会津の伝統工芸にひまわりをデザイン



会津若松市で漆器製造・卸を行っている株式会社 布分(ぬのぶん)様の協力のもとで2020年より制作してきた「ひまわり赤べこ」「ひまわり起き上がり小法師」。平安時代に蔓延した疫病を払った赤い牛の伝説が由来の「赤べこ」と、何度倒しても起き上がる事から「七転八起」と言われている「起き上がり小法師」に、当団体の復興の花であるひまわりをデザインしています。



ひまわり赤べこ

サイズ: 80×180×100(mm)
※ひまわりの種3粒付き
10,000円(税込)



ひまわり起き上がり小法師

サイズ: 30×30×3(mm)
※ひまわりの種3粒付き
2,000円(税込)

▼福島ひまわり里親プロジェクトの
オンラインショップからご購入いただけます!

<https://himawaritane.official.ec/>



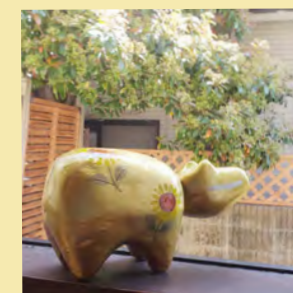
協会北京事務所と伊勢丹三越が各都道府県に呼びかけ、福島県からは中国との経済交流を促進している福島県上海事務所(福島県産業振興センター上海代表処)のサポートを受け当商品が選ばれたのです。商品は、三越伊勢丹が新たに立ち上げた越境ECサイトでも販売され、日本国内では当プロジェクトオンラインショップ等から購入可能です。

長引く新型コロナウイルスの早期収束と、震災やさまざまな災害などからの復興・再起への願いを込め、福島県の「開運笑福・疫病退散」の赤べこ「無病息災・家内安全」の起き上がり小法師が、皆さまの日常の癒しとなるよう祈っております。



明るい未来への希望をイメージしました!
皆さんに元気で前向きな気持ちになっていただけたら幸いです。

奇跡的な流れで商品となり、全国、中国へ繋がった「ひまわり赤べこ」「ひまわり起き上がり小法師」。東日本大震災が発生して10年が経ちましたが、福島を思い行動してくださる全国の里親さん。現在では、55万人以上の参加者と、教育機関5,992校の皆さまに後押ししていただき生まれた商品であると確信しております。コロナ禍でも、里親の皆さまそれぞれに工夫されてひまわりを育て、福島にひまわりの種とメッセージを送っていただいています。「福島ひまわり里親プロジェクト」のシンボルとして、また、福島県の新しい商品としてご愛顧いただければ幸いです。(山田 雅彦)



福島大学の インターン生が活動

8月から9月までの10日間、「NPOインターンシップ・プログラム」(主催:NPO法人ドットジェイピー)を通じて福島大学の1年生、2年生の3名が、インターンシップに来ました。様々な活動をとおして、福島ひまわり里親プロジェクトへの理解を深めました。



DMのラベル貼り
梱包作業



理事会参加
チームふくしまメンバー 講話



「ぼくのひまわりおじさん」
朗読の録音(関連5ページ)



ドローン撮影サポート(関連9ページ)



インタビュー



福島市の「BLT子ども食堂」のボランティアに参加。この日は、市内のお弁当屋さんから仕入れたお弁当などを、約200個を配布しました。

参加学生の
インターンシップ
目的と感想

理事会や絵本の朗読など 通常のインターンシップではできない体験

- 様々な人たちと交流することで、今まで考えてこなかった社会の問題や、新しい考え方を教えてもらい、視野を広くして考える
- 障がい者の方の雇用問題やこどもの貧困、防災教育についても深く考えて生きていきたい

福島の復興に向き合うこと

- 福島ひまわり里親プロジェクトやチームふくしまの理事による講話などから復興のために何ができるかという姿勢を学ぶ
- 自分でも復興のためにできることを考えたり、復興に関わる企画に参加したりなど今後も福島の復興に向き合い続けていきたい



※この事業は、日産スマイルサポート基金の助成を受けて実施しました



ひまわり栽培

&

ドローン・カメラ・動画作成

体験

第1回



ドローン操作を学ぶ

日産スマイルサポート基金の採択をいただき、2021年4月～11月にかけて、福島県田村市大越町牧野地区にて、ひまわりの栽培とドローン体験教室を開催。撮影した写真は子どもたちが動画にしてYouTubeで公開中です。

https://youtube.com/playlist?list=PLI9v3r540W5VXqeoc8BhD-abkRonAbn_b



第2回



写真の撮り方 & 農業体験

映え写真とるぞー!

第3回



ひまわりの苗植え

第4回



ドローンでの撮影

うまく飛ばせるようになってきたー!

第5回



ひまわりの
茎で杖づくり

第7回



発表

動画を見てもらった皆さんに
ありがとうを伝えたい!

第6回



動画づくり



双葉町の東日本大震災・
原子力災害伝承館へ

2021年 ひまわりの種 福島県内寄贈先

全国の里親さんから届いたひまわりの種が、福島県内各地で花を咲かせました！



中通り 福島市

日ビス福島製造所
(株)フクトウ
福島民報社
福島銀行 福銀会
整体院縁
NPO法人キッズハウス りんごっこ
月電工業(株)
風船工房MORITTO
(株)フレッシュ
NPO法人子ども未来クラブ
ほんさいや「あべ」
損保ジャパン(株)福島保険金サービス課
(株)f'sぽけっと
福島交通(株)
(有)ニューキムラヤ
福島県立図書館
NPO法人うつくしまスポーツルーターズ
福島県青少年会館
福島市消防署
BLTカフェ
ガールスカウト福島県連盟
二本松市役所 岩代支所
JICA二本松

二本松市

郡山市

望Write
夢成(株)
郡山ザベリオ学園中学校
福島スバル自動車(株)
農家の店 アックス須賀川店
須賀川信用金庫
白河市立五箇中学校
天栄村役場 湯本支所
富士工業(株)

須賀川市

白河市
天栄村
中島村

浜通り

いわき市

いわき市立湯本第二中学校
いわき市立小名浜第一小学校
NPO法人グローバルミッションジャパン
小高区ふるさと農地復興組合
浪江町役場
(一社)とみおかプラス
(有)アド・プロ広芸社

南相馬市

浪江町
富岡町
広野町

会津

金山町

金山町役場
上横田農田地利用改善組合
(株)みなみあいづ
なかあらい大地を育む会活動組織
柳津観光協会

南会津町

柳津町

※掲載は一部です

お見舞い募金のご報告

2021年8月2日、里親である岡山県の日野浦さんのお宅が家事で全焼。そのような状況でも、ひまわりの種を採取してお送りくださったことをSNSの投稿で知り、8月5日～15日までお見舞い募金を募らせていただきました。多くの方々からご協力をいただき、お預かりした210,175円全額を、火災お見舞いとして日野浦さんご一家にお渡しさせていただきました。



これだけ焼け焦げた
我が家の塀のひまわりさん
12本とも、茎も葉も焼け焦げてしまいましたが
花首は12本ともきれいなまま、採取できたの!!
あの火事でも、ひまわりと野菜達は
無事に収穫できるの!!すごい奇跡!
奇跡のひまわりは、今日、福島へ送りました!
無事に届きますように!

※直後にSNSに投稿された内容

ひまわりの種とともにお手紙をいただいたのでご紹介させていただきます

この度は、ごていねいにおみまいをありがとうございました。私たちかぞくは、3人共、元気に前向きにがんばっております。おかげさまで、もっともっと元気をいただきました。右うでのけがでうまく字が書けなく、申し訳ありません。

なんと、火事にもまったく負けず、ひまわり 12本、元気なタネになりました。今年は庄小学校とは別にして、個人で送らせていただきます。何分、けがもあり、タネをカリカリするあみなども全て焼けてしまってます。今年は花首のままになりますが、どうかお許しください。あの大火事にも負けず、立派に仕上がったひまわりの花首には、たくさんのパワーをもらいました。またこのタネから、全国へパワーが広がってもらえたら、私は本望です。

半田さん、福島のみなさん、私達は、ひまわりに勇気と笑顔をもらいましたよ!! 3人おそろいのTシャツを着て、これからも前進あるのみでがんばってまいります。本当に本当にありがとうございました。



WEBサイトが新しくなりました!

商品の注文や寄付のお申込み、プロジェクトの紹介など、より分かりやすく表示しております。今後も活動の様子やイベントの告知など、様々な情報をお届けして参ります!



<https://www.sunflower-fukushima.com/>



トップページの
URLは同じです!



※この事業は「子どもサポート基金」(主催:公益財団法人東日本大震災復興支援財団)の助成をいただき実施させていただきました。

福島ひまわり里親プロジェクトの記録

(2021年4月～2021年12月)

全国各地でプロジェクトの活動を取り上げていただきました。一部ご紹介します。



2021年10月28日 河北新報



2021年4月28日 朝日新聞



2021年8月12日 福島民報



2021年7月6日 福島民報



2021年8月26日 毎日新聞(愛知県版)



2021年5月4日 福島民報



2021年5月20日 朝日新聞(京都版)



2021年9月20日 福島民報



2021年4月3日 河北新報



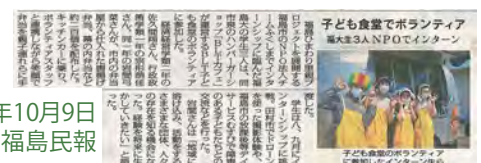
2021年4月2日 福島民報



2021年10月5日 室蘭民報



2021年7月5日 福島民報



2021年10月9日 福島民報



2021年7月5日 あやべ市民新聞



2021年6月11日 日本海新聞



2021年5月7日 福島民報



2021年5月30日 洛タイ新報



2021年7月1日 洛タイ新報



2021年12月20日 朝日新聞



2021年12月16日 福島民報



2021年5月31日 福島民報



2021年9月11日 日刊県民福井



2021年8月1日 埼玉新聞



2021年7月30日 読売新聞